

## 尺貫法

奈良市水道の計画は尺貫法で作られています。木津川での取水位、濾過地の水位、ポンプの押し上げ高さ、配水池の水位などはすべて尺で表されています。

奈良阪計量器室にあるベンチュリーメーターの目盛りは「HUNDRED KOKU PER HOUR」と刻まれています。

HUNDRED KOKU PER HOUR=1時間当たり100石

1石=10斗=180.39L      100石=18039L=18m<sup>3</sup>

この目盛りでは最大でも30       $18 \times 30 = 540\text{m}^3/\text{時}$        $540/3600 = 0.15\text{m}^3/\text{秒}$   
でした。

これらは輸入品でしたので、当時の日本の単位に合わせたものが注文されたのだと思われます。



奈良阪計量室のベンチュリーメーターの目盛り



ベンチュリーメーター



地下の送水管

計量室で石単位が使われたということは、需要者との間ではどのような単位でやり取りされていたのかと想像が膨らみます。

近代水道の黎明期を物語る遺産と言えるでしょう。

(文責：今岡亮司)